

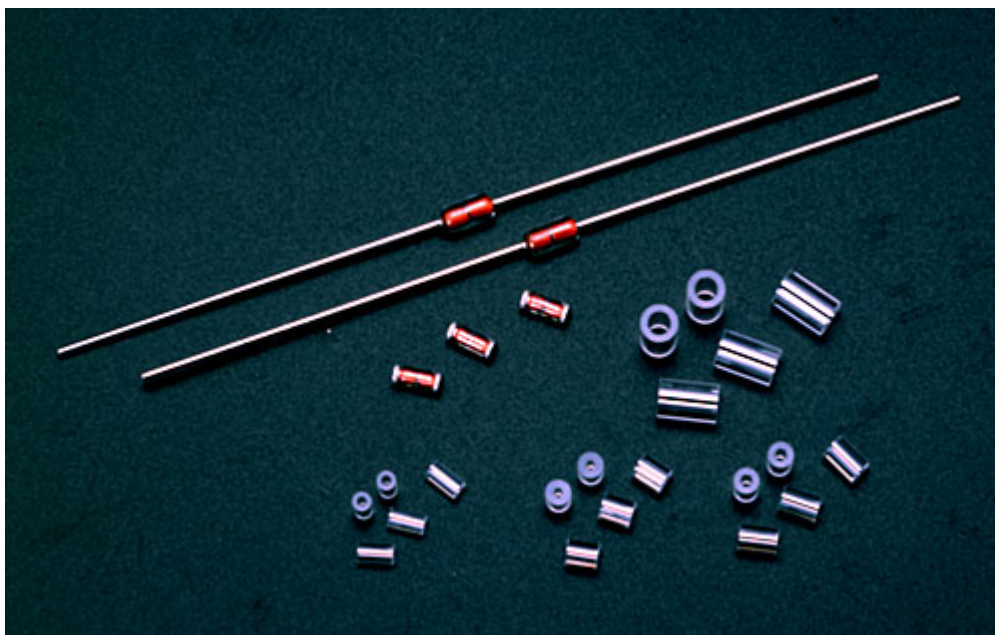
日本電気硝子株式会社(本社:滋賀県大津市、社長 井筒 雄三)は、このたび、シリコンダイオード*1を始めとする半導体封止用に鉛フリーガラス管〈NL-16〉を開発しました。順次サンプル出荷を開始します。

<製品化の背景>

シリコンダイオード封止用ガラス管には、封止工程での加熱による半導体の劣化を避けるため、低温封止が可能で、耐酸性、電気特性にも優れた鉛ガラスが使われています。

鉛を含まない代替材料がなく、本年7月に施行される「RoHS指令*2」においても、この用途に使用されるガラスに含まれる鉛は規制対象から除外されています。

当社は、RoHS指令発効を前に電子部品メーカーが規制対象品以外に対しても鉛フリー化の取り組みを加速する中、同ガラス管の鉛フリー化に取り組み、このほどシリコンダイオード封止用ガラス管に要求される低温封止性、耐酸性などの諸特性を満たす鉛フリーガラスの開発に成功したものです。



<NL-16の製品概要>

1. 標準寸法: 外径 1.78mm × 内径 0.86mm × 全長 3.81mm 他 各種

2. 特長:

(1) 鉛フリー

ガラスの構成成分中に鉛(及びその化合物)を含みません。

(2) 低温封止が可能

シリコンダイオードの封止において、従来の鉛ガラスと同等の温度で封止が可能です。

(3) 優れた耐酸性

酸を用いて端子をメッキするような製品、例えばリードレスダイオード等にもご使用いただけます。

《ご参考》

*1 シリコンダイオード:

一定方向にしか電気を流さない機能を持つ電子部品。

スイッチング、定電圧などの種類があり、電気・電子機器に広く使われている。

ガラス管封止タイプには、リードタイプとリードレスタイプと2種類の形状がある。

リードレスタイプは表面実装用で、端子被覆にメッキを用いる場合がある。メッキ浴の酸によるガラスの劣化は製品の信頼性低下に繋がるため、ガラスには耐酸性が必要となる。

*2 RoHS指令:

EU(欧州連合)域内において、電気・電子機器への特定有害物質の使用を制限する指令。同指令では鉛、水銀など6種類の禁止物質が定められており、2006年7月より、これらの物質を一定量以上含む製品はEU全域で発売できなくなる。